

「無邪気な噴水遊び」

酷暑の午後。若い娘が幼児と遊んでいる。それを少し離れた場所で、彼女の連れの男が微笑んで見ている。恋人の母性を好ましく思っているのか、妻にふさわしいと思いつついるのか。いや、彼の口元には、黒い笑みが浮かんでいる。まるで何かを企んでいるように……。

あ、やったなあ！ お姉ちゃんも反撃だ！

ばしゃ、ばしゃ。あはは、水が冷たいねー。

あれ、お母さんが来たの？

うん、じゃあばいばい。また遊ぼうね。

……ふう、小さい子ってかわいいなあ。

あ、ごめんなさい、ご主人様。お待たせして。
私ばかりはしゃいじゃってごめんなさい。
でも、どうして小さい子と遊んでこいなんて。
二人で公園に来て、噴水を見たときから。
なにか理由でもあるんですか？



や、やだ、誰か来たらどうするんですか。

「今度は俺がおまえと遊んでやるよ」って。

もしかしてさつき私を子供と遊ばせたのは
健全に遊ぶ私を目に焼き付けて、

その後で翫って楽しむときのギャップのため？

いやああ、見えちゃう。

まだ公園で遊んでる人たちに、

私の透け透けの体が見えちゃう！

「さつきの小さい子の家族が見に来るぞ」って、

「お姉ちゃん何してるの」って、あの子が……？

やあああ、そんなこと言わないでええ！



は、はいっ、もつと脚を開くんですね？

噴水の近くにこうやって寝そべって、

ご主人様に汚された体をこうやって晒して……。

は。はい。もちろんです。言われた通りに。

このどろどろにされて、落書きもされた体で

噴水の中に入って、四つん這いで一周します。ま

るでメス犬みたいに……。

その後片足を上げて、おしっこするんですね？

してるところを見てくださるんですか？

うれしい……。

私のおしっこ混じりの水を噴き上げる噴水で、

明日も小さい子が遊ぶんですね……。

